



六中だより 9月号

開校44年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀之内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：675名



「限界を越える」ための努力とは
～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 齊藤 直之

今日から一番長い学期、2学期が始まります。2学期は体育祭・合唱コンクール・新人戦と盛りだくさんの行事があります。実りの秋という言葉がありますが、学習面に運動面に、先輩たちが創ったよい伝統の上にさらに素晴らしいものを創り上げていってくださることを期待します。

さて、始業式でこのような話をしました。その話は、腰塚勇人（こしづかはやと）さんのお話です。腰塚さんは中学校の保健体育の先生をしていました。

平成14年3月1日、事故が起きました。腰塚さんはスキーで転んで首の骨を折り救急車で病院へ運ばれました。その時、医師は腰塚さんの奥さんに「一生寝たきりか、よくて車いすの生活になるでしょう」と告げました。手術は成功しましたが、1週間たっても首から下は全く動きません。毎日「どうやったら死ねるだろう」とそればかり考えていたそうです。手足が動かないのだから、舌を自分で死のうとしたことがあるそうです。しかし、あまりの痛さにできませんでした。本当は生きていたかったけれど、生き方がわからなかった、と腰塚さんは言っています。そんな腰塚さんに勇気をくれた人たちがいました。「なにがあってもずっと一緒にいるから」という奥さんの言葉。「代われるものなら代わってあげたい」というお母さんの言葉。「先生、待っているから」という仲間や生徒たちの言葉。多くの人から優しさと強さをもらった腰塚さんは「一人じゃない、生きなきゃ」と強く思ったそうです。すると、事故から10日後奇跡が起きました。手足が少しずつ動くようになったのです。腰塚さんは、立ち上がれ歩ける喜び、し

やべれる喜び、字を書き、お箸が使える喜びを改めて感じました。そして4か月後、ついに腰塚さんは完全復活を遂げ、学校に保健体育の先生として戻ることができました。その際に、腰塚さんが立てた誓いがあります。

それは、

「口」は人を励まし、感謝の言葉を言う時に使おう

「目」は人のよいところを見るために使おう

「耳」は人の話を最後まで聴くために使おう

「手足」は人を助けるために使おう

「心」は人の痛みがわかるために使おう
という5つの誓いです。人間はみな、自分一人で生きているのではありません。誰かに支えられて生きているのです。腰塚さんはこの事故で、当たり前と思っていたことに「幸せ」と「感謝」を見つけました。周囲の人たちの励ましと自分の努力で限界を越えたのです。

腰塚さんは自分の経験を「命の授業」という形で全国で講演をしています。その最後に、『失敗』は悪いものではなく『夢にまた一步近づき、成長した証拠』なのです。だから、もし『失敗』したとしても、その『失敗』を、『夢にまた一步近づき、成長した証だ』と思い、自分を信じて『楽しく生きる努力』を続けてほしい。そして強く気持ちを持ち続けければ夢は叶う」と言っています。自分に限界を作らず、限界を越える努力が大切だということだと思います。

限界とは、だれかが決めるものではなく、自分自身との戦いです。「限界を越える」を2学期の合言葉に、支え合いながら努力を続ける第六中を目指します。